

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小説というものの一番普通の魅力は、読者に自分を忘れさせるところにある。自分を忘れ、小説中の人物となり、小説中の生活を自らやっているように錯覚する。小説中の人物とともに恋愛し、殺人しているように錯覚する楽しみ、この楽しみに身をまかすという事こそ、小説の一番普通の魅力である。無論これは、小説というものの根本の魅力であり、こういう魅力を持たぬものは、小説とはまず言えないのであるが、普通の読者は①この魅力以上の魅力を小説から求めようとはしない。②耳をふさいで冒険小説を読む子供の小説の読み方から一向進歩しようとするめない。(I)

ハドソンの「ラ・プラタの博物学者」という本のなかに、死を装う本能について、狐きつねの話が書いてある。狐は危険が迫ると死んだ振りをする。時々うす目をあけて、もう大丈夫かどうか確かめる。大丈夫と見定めると、そろそろ立ち上がって逃げ出す。その術策は巧妙を極めていて、犬などは完全にだまされるそうであるが、あまり巧妙すぎて本当に死んでしまう話もあるそうで、ある人が実験したら、胴体を切断してしまうまで死んだ振りをしていたという。(II)

読んだ時、吹き出しそうにおかしかったが、考えてみると、小説に毒されて、他人を装う術がすっかり身についてしまい、本当とうそとの区別がつかなくなってしまっているような文学好きの例には、しばしば出会う事と思えば、あまり狐を笑えたものではないのである。(III)

実地に何かやってみるまでもなく、小説を読んでいれば実地に何でもやっている気になれるので、実地に何もやらなくなる。じつと坐っては人生を経験した錯覚を楽しみ時を過ごすようになる。例えば、恋愛なぞ実地にした事もないのに、小説に様々な素晴らしい恋愛を読みかじって、恋愛を装う術が身についてしまうと実際の恋愛なぞ何物だかわからなくなってしまう。本当に恋愛の相手を見付けても、恋愛を装う術は容易に抜けられず、まるで小説のなかにいるのか、実地に恋愛しているのか、自ら省みても何が何やらわからぬと言ったような事になる。

(IV) このような事になるのも、小説の読み方というものをまじめに考えてみた事がないからだ。ただ小説を、自分を失う一種の刺激のようなものとして受け取っているからだ。だからやがて中毒するのである。(V)

これは小説ばかりではない、いろいろな思想の書物についても言える事だ。読書というものは、こちらが頭を空にしていれば、向うでそれを満たしてくれるというものではない。読書もまた実人生の経験と同じく真実な経験である。絶えず書物というものに読者の心が目覚めて対していなければ、実人生の経験から得るところがないように、書物からも得るところはない。その意味で小説をつくるのは小説の作者ばかりではない。読者もまた小説を読む事で、自分の力で作家のつくる場所に協力するのである。この協力の自覚こそ読書のほんとうの楽しみであり、こういう楽しみを得ようと努めて読書の工夫はなすべきだと思う。いろいろな思想を本で学ぶという事も、同じ事で、自分の身に照らして書いてある思想を理解しようと努めるべきで、③書いてある思想によって自分を失う事が、思想を学ぶ事ではない。恋愛小説により、自分を失い他人の恋愛を装う術を覚えるように、他人の思想を装う術を覚えては駄目だと思う。(VI)

問一 次の文章を補うとすれば、(I) ～ (VI) のどこに入れればよいか。その記号で答えなさい。

自分を忘れ去るといふ習慣は、小説の濫読によっていよいよ深くなってくる。つまり小説をむやみに読んでいるうちに、自分を失い、他人を装う術が、しらずしらずに身に付いて来るのである。

問二 傍線部①「この魅力以上の魅力」とは何か。文中の言葉を用いて四十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部②は、一言でいえば、次のような読み方であると考えられる。空欄部に適切な語を次の中から選び記号で答えなさい。

その作品に  するような読み方。

ア 集中 イ 耽溺 ウ 惑乱 エ 錯誤

問四 ハドソンの「ラ・プラタの博物学者」に出てくる「狐の話」について、

① 筆者はこの話を、どのようなものとして引用していると考えられるか。次のなかから適当なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア 童話的 イ 挿話的 ウ 説話的

エ 寓話的 オ 実話的

② この「狐」は、何の比喩と考えられるか。文中から適切な部分を抜き出して、その初めと終わりの三字ずつを答えなさい。

問五 傍線部③「書いてある思想によって自分を失う」と同じような意味で用いられている語句を、文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問六 本文の題としてふさわしい語句を、文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- |                     |                      |                     |
|---------------------|----------------------|---------------------|
| ① <u>ギョウテン</u> が染まる | ② 総理 <u>カンテイ</u> に入る | ③ <u>ゴラク</u> を楽しむ   |
| ④ <u>シヨウテイ</u> で争う  | ⑤ <u>キセイヒン</u> を買う   | ⑥ <u>トウシ</u> を燃やす   |
| ⑦ <u>カンユウ</u> を断る   | ⑧ <u>ヨクヨウ</u> をつける   | ⑨ <u>タンガンシヨ</u> を出す |
| ⑩ 機械を <u>カドウ</u> する | ⑪ 心を <u>ヘイコウ</u> に保つ | ⑫ <u>チョウデン</u> を打つ  |
| ⑬ 新人を <u>登庸</u> する  | ⑭ 保険の <u>約款</u>      | ⑮ <u>傑出</u> した腕前    |
| ⑯ <u>醜聞</u> を暴かれる   | ⑰ <u>繭糸</u> を取る      |                     |